

デーヴォ ガイド



2021.1.25-31

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い (なるべく短く)
- ④預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

6:16 断食するときには、偽善者たちのようにやつれた顔つきをしてはいけません。彼らは、断食していることが人に見えるようにと、その顔をやつすのです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:17 しかし、あなたが断食するときには、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

6:18 それは、断食していることが、人には見られないで、隠れた所におられるあなたの父に見られるためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が報いてくださいます。

6:19 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。

6:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。

6:22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、

6:23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。

6:24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。

賞賛に値します。それだけにそれを知られるなら尊敬されるでしょう。知られたからといって、嘘をついているわけではありません。それでもイエス様は「人には見られないで」と言われます。

見られることは罪ではありませんが、天の父に報いがもらえなくなるといふ、もったいない態度なのです。人からの報いよりも、神様からの報いの方がはるかに良いことを、イエス様が保証しておられることが分かります。

自分の宝、富についてもイエス様は、神の国の価値観を教えてください。重要なことは、「神に仕える」ということです。しかし、地上に宝を蓄えていると、天を見られなくなって目が曇ってしまい、神に仕えるということが分からなくなってしまいます。神様のことや、そのみわざが見られなくなってしまうのです。

宝を天に蓄えましょう。地上の宝をふやすよりも、天の宝をふやしましょう。主はその宝を、必要なときに何倍にも増して与えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

6:26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。

6:27 あなたがたのうちだが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

6:28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえない。働きもせず、紡ぎもしません。

6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほども着飾ってはいませんでした。

6:30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

6:32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

6:34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

飲むもの、食べるもの、着るものなど、生活に必要なものを求めるなどは言うておられません。優先順位のことを、イエス様は言うておられます。私たちは、必要だから、心配だからと神の国を後回しにしていることがいかに多いことでしょうか。鳥や花などは、自分で生活していないように見えます。すなわち何も計画できませんし、そこにある環境にただ順応するだけです。イエス様は人もそのようで、自分自身では何も決められないのだという意味で、それらの鳥や花と一緒にであると語られます。

つまり、神様に養ってもらえなければ生きられないのが人間なのです。その神様は鳥や花よりも、私たちが大切にしておくださるのです。主をもっと信頼し、主に依り頼みましょう。

神の国とは神の支配です。神様の主権を第一にしましょう。そのご命令を。ご計画を。また神の義とは、裁く義ではなく、悔い改める者を赦してきよめてくださる義です。そのような救いそのものである義を、私たちの生き方の優先にしましょう。

生活が心配になってしまうのは、そのような神の国を第一にしていないからではないでしょうか。

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、



7:1 さばいてはいけません。さばかれないためです。

7:2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。

7:3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。

7:4 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください。』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。

7:5 偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

7:6 聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。

7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

7:8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

7:9 あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。

7:10 また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

7:11 してみると、あなたがたは、悪い者であっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どう

して、求める者たちに良いものを下さらないことがあります。

7:12 それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもするようにしなさい。これが律法であり預言者です。

「さばく」とは決めつけるというような意味のことばです。私たちは裁判官ではありませんから、さばくことはないと思いがちです。しかし誰かを、悪く決めつけてしまうことはあるのではないのでしょうか。良い面も見てあげなければいけません。

親切や対処のために、人を客観的に判断することもあります。その判断は当たっているでしょう。しかしイエス様は、「まず自分の目から梁を取りのけなさい。」、すなわち自分自身に改善すべき点があることに気づきなさいと言っておられます。どうでしょうか。人のことは良く見えますし、変えたくありません。しかし、人の問題を指摘して、その人が変わるほど簡単ではないのです。

神の国に生きる者は、まず自分から変わるのです。そうして初めて、相手の本当の問題点が分ります。相手を変えようとしている間は、自分の見方が中心で、神様の視点に立ってはいけません。

犬や豚というのは大切なものの価値が分りません。聖なるものや高価なものを与えても無駄になることは見えています。同じように、まだ心が神様の救いや真理に対して開かれていない人に、みことばや福音を教えても、無駄になるということです。しかし神様に導かれている人は、いつまでも霊的無感覚ではないでしょう。その人を愛しつつ、たましいの状態が変わって、主を求めるのを期待しましょう。

「求めなさい」「捜しなさい」「たたきなさい」と、イエス様は期待しながら主に求めることを勧めておられます。天の父は、この世のどんな父よりも愛と恵に富んだお方です。

さばかないこと、主に信頼することによって、人を愛することができます。そのようにして、「自分にしてもらいたいこと」を、身近な人に実行しましょう。それは誰でしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

7:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。

7:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。

7:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。

7:19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

7:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。

7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。

7:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす子ども。わたしから離れて

行け。』

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができません。

7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができません。

7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。』

7:28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。

7:29 というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。

信仰の道は「狭い門」のように感じますが、たくさんの方が行く道が正しいとは限りません。クリスチャンが多い時代や国もありますから、それは統計的な数字を言っているのではないでしょう。安易な道よりも、主の道を選ぶということです。

現代でも「にせ預言者」のように、神様の真理からはずれたことを主張する人はいます。その判断基準は「実」です。博学であったり、霊的に鋭く感じたり、祈りの力があるように見えたりしても、その人の人間関係や生活や牧会の結果がどうであるかということは、有力な判断材料になりません。主がいつも共におられるかということでしょう。

同じようにクリスチャンはみな、「実」によっ

て判断されます。それは「行なう者」か「行なわない者」かということです。ディポジションをして、神の「ことばを聞いてそれを」行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:1 イエスが山から降りて来られると、多くの群衆がイエスに従った。

8:2 すると、ひとりのらい病人がみもとに来て、ひれ伏して言った。「主よ。お心一つで、私をきよめることができになります。」

8:3 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに彼のらい病はきよめられた。

8:4 イエスは彼に言われた。「気をつけて、だれにも話さないようにしなさい。ただ、人々へのあかしのために、行って、自分を祭司に見せなさい。そして、モーセの命じた供え物をささげなさい。」

8:5 イエスがカペナウムにはいられると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、

8:6 言った。「主よ。私のしもべが中風やみで、家に寝ていて、ひどく苦しんでおります。」

8:7 イエスは彼に言われた。「行って、直してあげよう。」

8:8 しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばをいただくさせてください。そうすれば、私のしもべは直りますから。」

8:9 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいて、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」

8:10 イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あ

なたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことがありません。

8:11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。

8:12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

8:13 それから、イエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。

イエス様が癒しをなさった中心的な目的は、人を助けるためということではありません。それならばもっと多くの人々を癒したはずですが、また神としての力を示すためでもありません。それならば、その力を宣伝してもっと多くの名声を集めたでしょう。

イエス様が癒しをなさったのは、ご自分が聖書に預言された救い主であることを明らかにするためでした。それで、まだ「だれにも話さないように」と言われたのです。つまり宣伝のためではないということです。

百人隊長は異邦人でしたが、イエス様の神としての権威を知っていましたし、自分自身は本当にへりくだりつつ、みわざを求めました。それでイエス様は、「御国の子らは」と、ユダヤ人の不信仰をとがめたのです。

神様に信頼しつつも、その主権の前に謙りひれ伏して、主の目的に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:23 イエスが舟にお乗りになると、弟子たちも従った。

8:24 すると、見よ、湖に大暴風が起って、舟は大波をかぶった。ところが、イエスは眠っておられた。

8:25 弟子たちはイエスのみもとに来て、イエスを起こして言った。「主よ。助けてください。私たちはおぼれそうです。」

8:26 イエスは言われた。「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちだ。」それから、起き上がって、風と湖をしっかりとつけられると、大なぎになった。

8:27 人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

8:28 それから、向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかれた人がふたり墓から出て来て、イエスに出会った。彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。

8:29 すると、見よ、彼らはわめいて言った。「神の子よ。いったい私たちに何をしようというのです。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来られたのですか。」

8:30 ところで、そこからずっと離れた所に、たくさんの豚の群れが飼ってあった。

8:31 それで、悪霊どもはイエスに願ってこう言った。「もし私たちを追い出そうとされるのでしたら、どうか豚の群れの中にやってください。」

8:32 イエスは彼らに「行け。」と言われた。すると、彼らは出て行って豚にはいった。すると、見よ、その群れ全体がどつとがけから

湖へ駆け降りて行って、水におぼれて死んだ。

8:33 飼っていた者たちは逃げ出して町に行き、悪霊につかれた人たちのことなどを残らず知らせた。

8:34 すると、見よ、町中の者がイエスに会いに出て来た。そして、イエスに会うと、どうかこの地方を立ち去ってくださいと願った。

イエス様が神であるということは、全万物の造り主であるということです。その御心のままに「風や湖までが言うことをきく」のは当たり前です。私たちはもっと単順位イエス様の全能に信頼して良いのかもしれませんが、恐がっているときに、「主よ助けてください」と呼び求めつつ、主に信頼しましょう。

またイエス様が神であるということは、見えないう霊的な領域の権能者であるということでもあります。悪霊の影響は今でもありますが、主イエスにより頼むことが大切です。

飼っていた者たちは、自分たちに損害があったからということで、イエス様に「立ち去ってください」と頼みましたが、悪霊から解放されて人生を取り戻した人のことは頭になかったようです。自分の利害を、人の幸いやイエス様の栄光よりも優先する者にはなりたくありません。自分自身を省みてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

